

北のみち普請寄合(フォーラム) in 函館 開催

平成20年2月6日に「北のみち普請寄合in函館」が開催され、約200人の参加者が会場を埋め尽くしました。(写真-1)

はじめに、北のみち普請を育てる会会長でもある小林英嗣北海道大学大学院工学研究科教授が、「共助による地域再生の目標と戦略」をテーマに基調講演を行いました。

温暖化など環境問題に言及し、「地域が環境を考えた戦略を立てることが大事」と強調し、地域づくりの担い手支援を訴えるとともに、行政と地域が共助で連携する地域再生の取り組み体制を示し、広域連携の重要性を呼びかけました。

休憩をはさみ、南北海道でボランティアなどの活動を行っている団体の活動発表が行われました。

シーニックバイウェイ北海道「函館大沼噴火湾ルート」の折谷事務局長は、『道南におけるシーニックとVSP(ボランティアサポートプログラム)・道普請』をテーマに、道南におけるシーニックバイウェイやボランティアサポートプログラムの現状を報告し、今後の夢を語りました。(写真-2)

函館市立光成中学校生徒会の鈴谷さん、館川くん、渡部くんからは、1986年に一人の生徒が始めた「啄



写真-1

木小公園でのボランティア清掃活動」が、現在では海岸、校区内の清掃活動にまで広がり、生徒会の公約にもなるなど伝統的に続けられていることが報告されました。(写真-3)

続いて函館ウェルカムロードの渡辺さんからは函館土木現業所とボランティアサポートを結んで、道道函館空港線で行っている植栽活動について、人家がなく殺風景な景観だった道道函館空港線に色とりどりの花を植えることで、道内外、国内外からの観光客の目を楽しませる活動が着実に地域に根付き始めているとの報告がされました。(写真-4)



写真-2



写真-3



写真-4



写真-5

赤松街道を愛する会の寺沢会長からは、歴史にもふれながら赤松街道を守るために行っている秋の薦こも巻き、春の薦外し、清掃、観察勉強会などの活動についての報告がされました。(写真-5)

最後に、北の道普請を育てる会の委員より、各団体の活動に対してメッセージが送られ、「若い世代の活動参加は将来につながる」など、学校との連携の重要性を指摘する声が上がっていました。